

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和2年3月25日掲載

3年1組 角岡 叶望

私たちの中学校では、苓北支援学校との交流があります。苓北支援学校は中学校に入って初めて苓北支援学校徒の交流の日、僕は最初、何をするのか不安でした。その理由は、体が自由な僕たちと不自由な子供達が楽しめる遊びができるのだろうと思ったからです。

学校に着いて校舎に入ると何もない部屋に2人の友達がまっていました。そこで挨拶をした後、苓北支援学校の先生が、「今日はボッチャをします。」と言われました。僕はボッチャについてあまり知りませんでした。みんなと一緒にやってみると簡単でとても楽しめるゲームでした。支援学校の友だち2人も、僕たちがサポートすると、とても楽しそうに参加していたので僕もうれしくなりました。交流を続けるうちに全部で7戦して自分たちのチームが六勝して勝つこともできました。

交流が終わって帰り際に、2人の顔を見るととても寂しそうに感じました。そしてなぜか僕も寂しくなっていました。そのとき、なぜ、僕は2人につられて感情が左右されるのだろうと不思議に思いました。「もしかして、心が通じ合ったのかなと思いました。」そして僕がニコッと笑うと二人もニコッと笑い返してくれたような気がしました。